

# 『関西モダニズム再考』

竹村民郎・鈴木貞美編

思文閣出版、8925円

日本のモダニズムを関西を中心に考察し直した画期的な学際研究の書である。20世紀初頭に実現した「阪神間モダニズム」すら「東京中心史観」によって正当に位置づけられているとは言い難い。書名の『関西モダニズム再考』は京都を加えた新しい視点を意味する。カラフルな私鉄沿線の分譲地や宝塚少女歌劇のパンフレットなど、編集に工夫が凝らされていて楽しい。

エコノミスト 3/25.

2008